

神戸大学交響楽団
第17回定期演奏会



PROGRAM

第 17 回 定期 演奏 会

昭和 42 年 12 月 8 日

神 戸 国 際 会 館

指 揮	奥 田 伸 悟
	堀 宏 至
独 奏	小 林 と し

神 戸 大 学 交 響 楽 団

PROGRAM

Fidelio overture op. 72.....L. v. Beethoven

Piano Concerto No. 5 Eb major "Emperor" Op. 73...L. v. Beethoven

Allegro

Adagio un poco mosso

Rondo Allegro

————— Intermission —————

Serenade No.6W. A. Mozart

(Serenata Notturna)

Symphony D minor..... C. Franck

Lento—Allegro non troppo

Allegretto

Allegro non troppo



大 林 組

取締役社長 大林 芳郎

本店 大阪市東区京橋3丁目75番地

電話大代表 (941) 0861

「フィデリオ」序曲……………ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第五番 変ホ長調「皇帝」……………ベートーヴェン

アレグロ

アダージョ・ウンポコ・モツソ

ロンド・アレグロ

————— 休 憩 —————

弦楽とティンパニーのためのセレナーデ……………モーツァルト

(セレナータ・ノットルナ)

交響曲 ニ短調……………フランク

レント——アレグロ・ノン・トロツポ

アレグレット

アレグロ・ノン・トロツポ

1日50円で管楽器をお貸しします

《ヤマハ管楽器レンタル》

■お貸しする楽器 フルート・クラリネット・トランペット

● 初めて楽器を持たれる人に15日で曲が吹ける教則本をさしあげます

○ 貸し出し期間 15日間—750円・30日間—1500円 2種類です。

○ 保証金2000円お預りします。(楽器返還の際全額お返しします。)

お徳になること あなたが楽器に興味を感じ、お買い求めになる場合。

貸し代金全額をお返しします。

日本楽器

神戸店 神戸市生田区元町通2—188

TEL (39) 3 1 5 1



小林とし

芸術家には二つの型があると思う。やたらに発表したい意欲を持ち、ことあるごとに発表するものと、いま一つは慎重に慎重を重ねて研究に没頭し中々「おみこし」を上げない型のものである。いずれがいいか、にわかに決められるものではないが、小林さんはどちらかというと後者に属する人であろうと思う。

だから卒直に言って彼女は慎重すぎる嫌いがある。このことは長所であると同時に考え方によっては短所ともなり得る。

さて小林さんは、子供の時から音楽に才能をあらわし、可愛い幼少時代には「お下げ髪にリボン」をつけて人力車でピアノレッスンに通われたと聞いている。これは当時としてはすこぶる恵まれた環境といえよう。やがて芸大を経て引続き今日まで幾多の修練をつみ重ねてきたのである。こうした毛並のよさもあずかって彼女の音楽はすこぶる高尚で、洗練された独得のタッチはあざやかである。又、内在する音楽性は清く、正しく、深味がある。

なおピアノ以外の分野についても、すぐれた音楽観をもっている。特に教育の面では、常に「芸術と教育」との関連性を探究し、時に名言を吐き、その方法論まで言及される。しかもいつの間にかその

実績をあらわして我々を驚かせることもある。このように彼女はすぐれたピアニストであると同時に立派な教育者である。

今夕演奏されるベートーヴェンの協奏曲第五番「皇帝」はこれまでも何回か演奏されており、お得意中の一曲であろう。最近ではつい先日、京都市交響楽団と共演したばかりである。ご成功を祈って筆をおく。

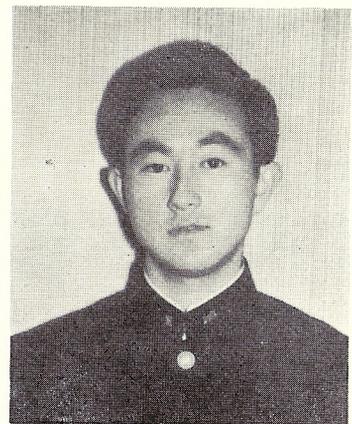
神戸大学教育学部音楽科主任教授 伊熊良穂

彼はブラームスの作品を愛し、フルトヴェングラーを尊敬する。一見フェミニスト風だが、練習場では、男性には優しく、女性には厳しく(?)をモットーによき指揮ぶりを見せてくれる。練習の際に我々部員の心をいつのまにか掌握し、曲を作りあげていくのはロマンチストの彼の性格から自然ににじみ出る豊かな音楽性の所産であろう。

一面宿舎などで事件が起ると必ずその張本人として彼の名前が浮び上がってくる。例えば入部したての1年生の時、塩っ辛いお茶で皆がニガ虫を噛みつぶしたような顔をしていると彼が横でニヤニヤ笑っていた。

その彼もビールをコップに一杯飲んだだけで倒れるほど酒には弱かったのであるが、最近やっと日本酒の味が判りだしたらしい。

アマチュアオーケストラの指揮者という難しい立場ではあるが、あらゆる面で今後の成長の楽しみな彼である。さしあたり彼に望まれる事は、オーケストラの特性の把握、又曲においても指揮においてももっと幅広い研究をし独自に何かを築くことなどではなからうか。最後に彼の名誉のために一言つけ加えておくと、学校においては家本ゼミに於て経済統計学を学ぼうとする学究の徒でもある。



堀 宏 至

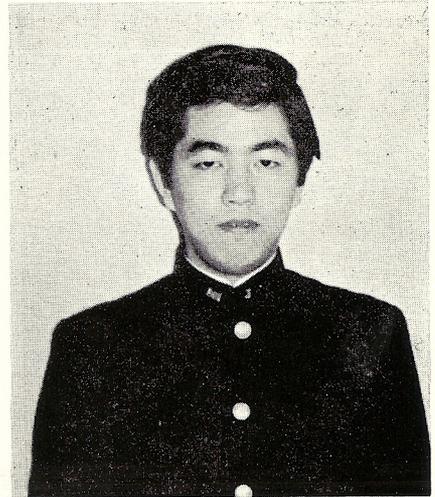
(J. S.記)

高校時代からブラスバンドにおいて指揮棒をとり、指揮法の指導もうけたという彼の指揮は、はっきりしており彼の望むところをよく表現する。持ち前のファイトがその指揮にこめられ、それが若々しくダイナミックな音となって現われる。このような彼の指揮において神大オーケストラは、以前とは異った別の音を響かせることを知ったようだ。

彼の音楽に対する情熱の激しさは、緻密な又厳しい要求となって現われ、その厳しさはしばしば反感すら受けることもある。しかし彼は現在も指揮法の研究は忘れず、最近ではワインガルトナーの「ベートーヴェンの解釈」により音楽の構成面を研究しているようだ。

このように音楽には厳しい彼であるが、一旦練習を離れるとその強裂な個性をもって皆を引きつける。彼の下宿には、よく一年生・二年生の者までも集り、酒を飲みつつ語り合い、しばしば夜を明かすこともあるとかと聞く。

昨年チャイコフスキーの「エフゲニオネーギン」で副指揮者としてデビューした彼は、以後ベルリオーズ、ウエーバー、ビゼー、ワグナー等ロマン派を中心としつつ一方ではバッハやプーランク等まで幅広くレパートリーを開拓してきた。本人はチャイコフスキーの「交響曲第五番」を振りたかったそうだがこれは実現せずに終わったようだ。



奥田伸悟

(K. Y.記)

昨年の定期演奏会の直後に、部員から全員一致で、神大オーケストラのコンサートマスターに選ばれました。その就任の弁で頭をかきながら、しかし彼はキッパリと言いました。「若々しいアンサンブルをつくりあげたいと思います。」と。この言葉の達成に一生懸命努力を続けてきた彼ですが、今では立派に重責を果たしています。5才から始めたバイオリンは、ますますそのサエを見せており、自信にあふれる演奏でオケを引っ張っていきます。ユーモアを含んだ注意を適当に発して演奏をぐっと引き締めているのです。

いつも学生服を愛用し、音楽に明け、音楽に暮れる毎日を過ごしてきた彼ですが、専門課程にどうやらもぐり込んだ現在、「少しは勉強の方もやろうかな」と考えている様子も少々はうかがわれるというところ。

研究熱心な彼は、どんな楽器でも手にとって演奏してみます。管楽器を片っ端から吹いてみてその感想に曰く「アアしんど、やっぱりオレにはバイオリンが一番性に合っているな。」

彼は音楽について、「芸術がどうの」「音楽理論がどうの」と面倒なことは一切口にしません。幼い時から音楽を楽しむという環境で育ってきたためか「音楽は楽しむもの」というのはなほ主観的な考えを持っており、オーケストラの他にも、自宅の近所の音楽好きな友達を集めては弦楽四重奏をやったり、「猫いらずを飲んだネズミ」などという、ふざけた交響詩を作曲して皆に演奏させたりしては楽しんでます。

技術の面にも秀れているし、彼こそ理想のアマチュア音楽家と言えると思います。

(K. M.記)



福永精一